

光反射マルチによるブドウの収量増加技術

気候温暖化の影響でブドウの果実では着色不良が発生し、房数を増やすと果実品質が低下する状況となっています。そこで、葉に当たる光を多くすることで生産性を高め、房数を増やしても果実品質を維持できる技術を開発しました。



慣行栽培(現地)

現状

- ① 温暖化による着色不良
 - ② 着色対策の着果数制限
 - ③ 生産資材の高騰
- ブドウ生産の収益性低下

収量増加



**光反射マルチ栽培
(ピオーネ・シャインマスカット)**

光反射マルチ栽培

- 地表面に光反射シートを敷設
- 適用品種および慣行比収量
「ピオーネ」 1.3倍
「シャインマスカット」 1.4倍
- 果実形質は慣行と同等以上

収量増加



**垂直枝配置栽培
(シャインマスカット)**

垂直枝配置栽培

- 地表面に光反射シートを敷き
棚下空間に枝を配置
- 適用品種および慣行比収量
「シャインマスカット」 1.8倍
- 垂直枝の果実は小さめ(500g)
だが、基準糖度(18度)以上